

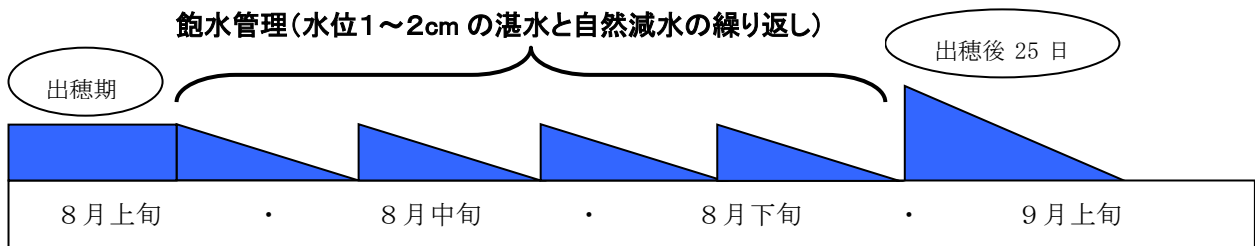
<p>8 月の気温は高温予報</p> <p>『飽水管理を徹底し、 適期に収穫しましょう』</p> <p>～ め ざ せ 全 量 1 等 米 ～</p>	<p>巻農業普及指導センター</p>
---	--------------------

出穂期は平年より 2 日程度早く、8 月の気温は高く推移する可能性が高いと予報されています。
 早生は 8 月下旬から収穫適期を迎える見込みです。刈遅れに注意し**適期に刈取り**ましょう。
 また、高温が続くことから、出穂後 25 日間（コシヒカリの場合：8 月末まで）の飽水管理を徹底しましょう。

1 登熟向上を促す水管理 ～飽水管理の徹底、早期の完全落水は厳禁！～

- (1) 飽水管理：出穂後 25 日（高温が続く場合は出穂後 30 日）まで、確実に実施する。
- (2) 最終かん水：こしいぶきは 8 月 20 日ころまで、コシヒカリ・直は栽培等では 8 月末まで飽水管理とし最終通水日は確実にかん水する。
- (3) 異常気象：異常高温や強風・フェーン等が予想される時は、予め湛水し障害を防止する。

飽水管理：水尻は止水し、湛水した水が自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がなくなり始めたらかん水する管理（田面のひたひた水状態を維持）



2 適期収穫 ～高温年のため刈遅れに注意！～

[主要品種の積算温度による収穫期予想]

8 月 8 日現在

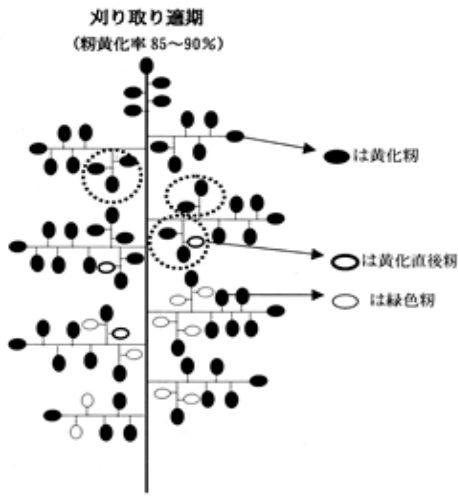
	品種	出穂期	積算温度 (°C)	収穫適期※1	備考
	ゆきん子舞	7/22～7/24	900～950	8/25～8/29※2	積算温度は、新潟県水稻栽培指針のめやすを記載 収穫適期の積算温度はアメダス巻地点の測定値の本年値(8/7まで)と平年値(8/8以降)を使用し、収穫適期は、各出穂期からの積算温度で算出。
	こしいぶき	7/23～7/26	925	8/27～8/31※2	
	コシヒカリ	連休植え	950	9/ 8～9/12※2	
		5月10日植		8/ 4～8/ 6	
もち	わたぼうし	7/20～7/22	925	8/24～8/26※2	
	こがねもち	7/29～7/31	950	9/ 4～9/ 7※2	
酒	五百万石	7/18～7/22	925	8/22～8/26※2	

※1 同一品種でも栽培条件の差（ほ場差、管理差等）で、収穫適期は異なるので注意する。

※2 高温登熟年にあたるので積算気温で平年より 2 日早い (-50°C) 値を表示。

高温年のため、刈り遅れ注意する。

3 収穫適期のめやす



[収穫適期のめやす～黄化粉割合 85～90%]

- ・上位3～4本目の一次枝梗に着生する2次枝梗粉が黄化した時が収穫適期

*一次枝梗9本程度の平均的な穂を10本程度調査し、8本以上が該当すれば収穫適期。

4 適正な乾燥 ～必ず張込時の水分を確認してから作業開始！～

- ・食味低下や胴割粒の発生防止のため、張り込み時の水分に応じた温度を設定。

張込時水分	28%	24%	18%以下
乾燥温度	40℃以下	50℃以下	昼間に通風循環後、夜間に加温乾燥

- ・玄米水分量を15.0%に仕上げる。(乾燥中の水分測定をこまめに行う)
- ・張込量が少ない場合は、乾燥が早めに仕上がるので過乾燥に注意。
- ・青米などの混入が多い場合は、乾燥終了後に水分の戻りがあるため、仕上げ水分に注意。
- ・刈遅れた場合や成熟期頃にファンで乾燥した日が続いた場合は、立毛胴割れが予想されるので、乾燥速度は、毎時乾減水分0.5%以下になるよう送風温度を低く設定。
- ・乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能が備わっている場合は活用する。

表 乾燥後の水分変化のめやす (富山農試)

100粒中の青米・くず米	5粒以下	0.5%乾燥が進む
	6～11粒	ほとんど変わらない
	11粒以上	0.5%水分がもどる

5 ていねいな調製 ～整粒歩合を高め、全量1等米に仕上げよう～

- ・粳すりは、肌ずれ防止のため、粳の温度が常温近くまで下がってから行う。
- ・ゴムロール間隔は0.8～1.2mmを基準に脱ぶ率80～85%になるように調節する。
- ・ふるい目は1.85mm(五百万石は2.0mm)以上を使用し、流量調節を適正にしてくず米を完全に除去し、整粒歩合80%以上に仕上げる。

6 その他

- ・収穫前に、クサネム等の雑草をほ場から除去し、玄米への雑草種子の混入を防止する。
- ・異品種等の混入を避けるため、コンバイン、乾燥機、調製機等の清掃を徹底する。
- ・始業前の機械点検を必ず実施するとともに、事故の防止に向けて、安全な農作業を徹底する。

熱中症及び農作業事故に注意しましょう！